

上中妻地域の ふるさと自慢!

地区広報「ふれあい上中妻」83号~98号 連載版集約



歩いてみませんか。

郷土の魅力再発見

ふるさと自慢



ふらと白慢

歩いてみませんか



大塚池公園

大塚池は
新堂池とも
呼ばれたこ
ともあった。

由来は明らかでないが、特有の地形が雨水や湧水が溜る池となり、水田稲作用に堤を築きその後堤上が笠岡街道（現在の国道50号）となった経過で今の大塚池が形作られた。

昭和30年代に大塚池畔に双葉台団地が開発されてからは周辺が住宅地に変貌したが、今でも農業用水に利用されている。

付近が住宅地化したことから、水に親しめる公園として整備中で、水辺周遊路約2.5kmは多くの市民が散歩やジョギングを楽しんでいる。冬季は野鳥とともに多くの白鳥が飛来する。

「茨城百景」や「新水戸八景」選に入り名を広めた。（住谷記）



可愛いらしい白鳥のヒナを見守る人たち

ふらと白慢

歩いてみませんか



成就院池公園

成就院池の
由来は今から
約737年から
400年前頃

開江町「正覚院門徒」の成就院がこの地にあり、その院の敷地にあった池が現在の成就院池です。

現在は、地域住民の憩いの場として、また農業用水の水源として活用され、地域になくはない存在となっています。

同池はNPO法人水戸西部緑化クラブと大塚青壮年同志会の皆さんによって守られています。

年間予定

もつと咲かせるサギ草教室

（上中妻市民センター他）

・3月15日（日）栽培方法

・5月31日（日）自生地見学

・8月9日（日）サギ草まつり

サギ草株診断



成就院池

ふらと白慢

歩いてみませんか



高野池

高野池は
加倉井地区
松原町北部
の開江町に接

する地域に位置し、昭和28年から団体営かんがい排水事業で溜池改修工事が行われ（施工中妻地区土地改良区）、現在の堤が築かれ高野池が形作られた。堤上は市道29号線として主要な交通路になっている。

一時は釣り人が多く訪れたが夏場過ぎに池干しを行っていたこともあり釣り人はほとんど見かけなくなった。今は野鳥の楽園になっている。

秋には地元の皆さん方による堤の草刈りが行われ、環境保全が図られている。



鏡のような秋の高野池

ふらと白慢

歩いてみませんか



富士ノ下池

富士ノ下池は
国道50号線加
倉井町交差点
北方約1.5km

に位置し、農業用水溜池として利用されている。

昭和28～29年に「団体営かんがい排水事業」として溜池改修工事（施工中妻地区土地改良区）が行われ現在の富士ノ下池が形作られた。

この周辺は「水戸鳥獣保護区」に指定され、また周囲がゴルフ場でもあることから、富士ノ下池に隣接する富士ノ上池と共にキビタキ、トビ、アカゲラなど野鳥の楽園として親しまれている。秋には地元の方々による堤の草刈りが行われるなど、環境保全も図られている。



富士ノ下池

北帰行する白鳥たち



妙徳寺本堂

妙徳寺 住職 植木 英明

今から約750年前、加倉井周辺を領有していた波木井(南部)実氏は、日蓮聖人の直弟子日高上人を招き百座百講を勤めて頂き、常陸国最初の法華道場を開く。後に永仁元年(1293)実氏は母の菩提の為に、日高上人を開山と仰ぎ母の院号をもって、隣井山高在院妙徳寺を開創す。その後も実氏の子孫は加倉井の姓を名のり、妙徳寺の支院の創立、新寺の建立、妙徳寺の移転(現在の地)など法華の外護者として尽力する。祈祷寺としてさまざまな外護を受けながら現在宗門史跡として法灯を伝えているのである。

ふるさと自慢



歩いてみませんか
妙徳寺



歩いてみませんか
妙徳寺



「霊泉」井戸と「常陸の湯」由来石碑

妙徳寺 住職 植木 英明

「常陸の湯」は現在水戸ゴルフクラブの敷地内にあり、文永二年(一二六五)日蓮聖人、この地を訪れ、眉間の刀傷・体を癒された霊泉成り。永承四年(一〇四九)源義家奥賊征討のおり、この地に二大湖(上池・下池)を見、清泉洋々たる水源をこの地に見つける。家臣に浴水させたところ、刀傷が癒えたとされる。義家ハム草舎を設け自ら感得した陣中守護神、八幡大菩薩を安置し戦勝を祈願されたとする。また、昭和一二年頃には、大横網双葉山も訪れ戦勝祈願を行いました。東日本大震災の後は、めっきり水量が減ってしまっております。

ふるさと自慢



歩いてみませんか
妙徳寺奥の院 常陸の湯



歩いてみませんか
妙徳寺奥の院 常陸の湯



三所神社拝殿

宮司 菅川 和重

武甕槌命・大己貴命・菅田別命の三柱の神々を祀る神社である。神社の創建年代は詳らかではない。元は鹿島神社が祀られており、明治六年(一八七三)に黒袴神社・八幡神社が合祀され、神社名を加倉井神社と称した。翌明治七年(一八七四)十一月に名称を三所神社と改める。寛保元年(一七四一)に奉納された手水石があり、古くより信仰され氏子の方々により守り続けられてきたことを物語る。現在、春季秋季の例祭、神輿渡御が行われる祇園祭の三回例祭が斎行されている。

有賀神社(三所神社兼務)

ふるさと自慢



歩いてみませんか
三所神社

三所神社は、加倉井町字松原の地に鎮座する。祭神は

歩いてみませんか
三所神社



「中根寺」本堂(右側面)と櫛の古木

中根寺 住職 高岡教眞

本尊は行基菩薩の御作と伝えられる延命地藏菩薩で、別に平将門意見地藏の異名があります。その他、新田宮流抜刀の開祖である剣豪和田平助が護持佛として所持していた摩利支天を御祀した摩利支天堂、常陸千日堂の名前がある阿弥陀堂、元禄年間創設されたと伝えられる薬師堂があります。

ふるさと自慢



古木とともにある
「中根寺」

中根寺は、元仁元年(一二二四年)に文覚律師に

古木とともにある
「中根寺」

ふるさと自慢

歩いてみませんか



「大塚農民館」

上中妻市民センター隣り
市民運動場入口側奥の道路

沿いに大塚農民館があります。地元出身の安蔵勉氏の「古き農民生活を知ることにより、今日の農民の糧にしたい」との発意により、同じ地元の郷土風俗史家前島信氏から農具蒐集品の提供があり、昭和61年に開館。

展示品は昭和中期頃まで使われていた生活用品や農具類で、囲炉裏や糸紡ぎ・機織りなどは人形を使った展示に往時の様子を垣間見ることが出来る。また、野良着なども展示され、当時の生活様式が分かる貴重な遺産が保存されている。

・休館日 月曜及び年末年始
大塚町 前島 要



大塚農民館

開館日問合せ 上中妻市民センターへ
当面の間 土・日・祝日も休館

ふるさと自慢

歩いてみませんか



「大塚地蔵尊」

上中妻小学校校わきの三叉路道端に大塚地蔵尊があり

「子育て地蔵菩薩」他4基の石仏が祀られている。

最も大きな「子育て地蔵菩薩」は元文3年8月の銘がある。

昭和35年8月に書き記された由来によると「紀元二千三百九十六年、人皇百十五代の嵯明天皇の御宇元文三年八月当地大塚村中により、村内安全・悪疫退散・子安の御守護神」として建立。さらに「御和讃」には「婦命頂来紫の煙たなびく筑波嶺の…中略…子育て地蔵尊南無や子育て地蔵尊」と書き記されている。

引用 海野庄二 著(大塚町)
「水戸の石仏」より
資料提供 前島 清様(大塚町)



大塚地蔵尊

ふるさと自慢

歩いてみませんか



「鹿島神社」

鹿島神社は、大塚町字神奏子内に鎮座し、武甕槌命を祀

る。創建は、建仁元年(一一〇一)や安土桃山時代から江戸時代前期にかけて等諸説ある。江戸時代には除地四石四斗一升五合であった。明治五年村社に列格する。

秋季例祭は、十一月二十三日に斎行される。往古は祭典に際し御神酒を醸し参拝者を接待し、撒餅・流鏑馬等も行われたという。現在でも様々な催事が行われる。また祇園祭では、大杉ばやしが奏され賑やかに神輿が渡御し、町内各地区で神事が行われる。前述した祭と元旦祭の年三回祭祀が斎行されている。

有賀神社(鹿島神社兼務)
宮司 曾川 和重



鹿島神社拝殿

ふるさと自慢

地域の守り仏



「阿弥陀さま」

満福寺は大塚町表地区に存在したが、天保年間(一八三〇〜四四)に廃寺になったと

伝わっています。堂宇の改修が何度か行われたが堂守りも不在となり茅屋の荒廃が進んだことから、収蔵していた仏像の鑑定を受けました。この仏像は、建長八年鎌倉時代中期の貴重な「阿弥陀三尊像」であることが判りました。

昭和四十七年九月に茨城県及び水戸市の有形文化財に指定されたのを機に地元有志による保存会を設立し、阿弥陀如来堂を建立、阿弥陀三尊像を奉安しました。現在は茨城県立歴史館に阿弥陀三尊像の保存を委託しています。

満福寺共同墓地
代表管理人 星野 正美



阿弥陀如来堂

ふるさと自慢

歩いてみませんか
日鷲神社



日鷲神社は金谷町字鷲宮に鎮座する。文永く建治



日鷲神社鳥居と幟旗

(一二七〇年前後)頃の創建と伝えられ、祭神は天日鷲命。末社に瘡瘡・大杉・稲荷・富士神社の神々を祀る。もとは加倉井地内にあつて天保以前に金谷の地に遷宮され、大正六年暴風で拝殿が倒壊し再建された。かつては御田植祭や、二百十日の風塞ぎに夜を徹して太鼓を打ち鳴らす光景も見られた。昔子供たちが境内で遊んで悪戯をしたので立ち入ることを禁じると村じゅうに悪病がはやり、再び遊びを許したら病が治ったという伝えがあり、毎年七月の祇園祭には小中学生で担ぐ子供神輿が家々を練り歩く。秋季例祭には菊池謙二郎先生揮毫(大正十一年二月)による幟旗が奉獻される。日鷲神社 総代 小松崎 紀男

ふるさと自慢

歩いてみませんか
塩街道の碑



碑は、飯島町本郷地内鹿島神社鳥居脇に、平成十年三月水戸市教育委員会により設置されました。碑文には



塩街道の碑

河和田地区の榎本・経塚の道は、古くから内陸部・栃木・群馬方面と鹿島灘沿岸を結ぶ主要な街道であった。現在の旭村・大洋村等の海岸にあった製塩地から塩や海産物を運んだ道なので、塩街道とも呼ばれていた。此れより南方約八〇メートルに領城窪という地名が今も残り、この街道の中継基地であったと伝えられています。と刻まれています。

ふるさと自慢

古墳上に社殿を祀る
飯島鹿島神社



創建は治承二年(一一七八)飯島町水江添の古墳上に鹿島神社より御分霊を迎え奉斎された。また、境内には八坂神社ほか五社が祀られている。本殿は享保二十年(一七三五)の造営。その後、鳥居、神輿殿などが建立された。祭事は、七月の祇園祭。町内を神輿渡御し各班の御旅所に立ち寄り休憩、家内安全、無病息災を祈願し一巡する。十一月には秋の例祭、二月に新年祭、節分祭を進行している。なお、近年の祭事は常磐神社宮司に兼務していた。その他、雑草の繁茂期には町内総出の宮なぎ(草刈り)を実施している。(創建等は由緒碑参考) 飯島神社 総代 立原 文男



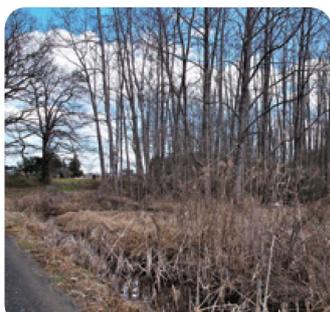
鹿島神社拝殿

ふるさと自慢

飯島白鳥池(掘)



飯島鹿島神社近く市道河和田55号線沿い西方約100m奥に入った、



湿地帯化した白鳥池付近

飯島三協町内茨山地区の葦や樹木が生い茂った湿地帯化した一帯が、地元では飯島溜と呼んでいた白鳥池付近である。明治二十一年調製の地籍図によると、付近一帯は白鳥堀と記され旧鯉淵村境までの細長い形状を成していた。昭和27年頃からの団体営区画整理事業で旧鯉淵村境付近は耕地化され、中心部付近の約3.2畝が白鳥堀として公園化現在に至っている。付近には往時からの銭洗弁天神社が祀られている。4ページに往時の白鳥堀位置を付記した現在の地図等を示します。

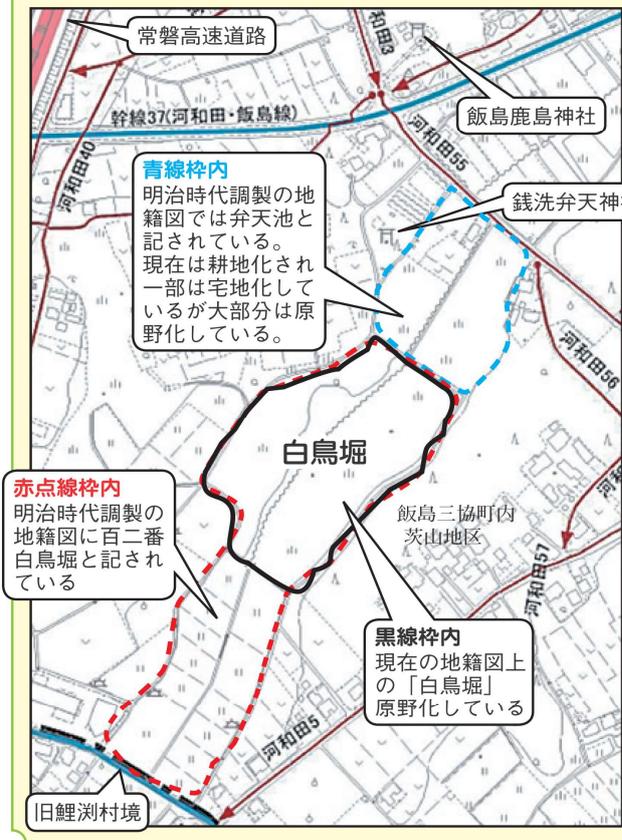
「ふるさと自慢」 自鳥池付近

水戸市道路地図に往時の白鳥堀位置を付記及び ※昭和23年当時の航空写真並びに現在の銭洗弁天神社

※出典:国土地理院ウェブサイト空中写真

黄色点線内が往時の白鳥堀

飯島鹿島神社



青線枠内
 明治時代調製の地籍図では弁天池と記されている。現在は耕地化され一部は宅地化しているが大部分は原野化している。

赤点線枠内
 明治時代調製の地籍図に百二番白鳥堀と記されている

黒線枠内
 現在の地籍図上の「白鳥堀」原野化している

